



SPARX

2005年3月期第3四半期 決算説明会資料

2005年2月15日



スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社
www.sparx.co.jp

決算説明会資料に関して

この資料は、投資家への情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の有価証券の取引を推奨する目的、または特定の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。

数値、情報については、正確性を期すべく、万全の配慮をしておりますが、一部内部資料に基づくものもあり、財務データに関しては未監査のものでありますので、その正確性、完全性、情報や意見の妥当性等を保証するものでなく、当該データ、意見等を使用した結果についてもなんら補償するものではありません。

また、ここに記載された内容が事前連絡なしに変更されることもあります。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。



第3四半期 連結決算ハイライト

本資料における数値は全て連結ベースの数値を使用している。

	2004年3月期		2005年3月期	
	第3四半期	通期	第3四半期	前年同期比
運用資産残高(AUM)平残 (億円)	4,290	4,597	7,329	+70.8%
営業収益 (百万円)	8,082	11,117	11,590	+43.4%
営業費用・一般管理費 (百万円)	3,510	4,429	4,725	+34.6%
営業利益 (百万円)	4,572	6,687	6,864	+50.1%
経常利益 (百万円)	4,473	6,678	6,777	+51.5%
当期利益 (百万円)	2,191	3,380	3,340	+52.4%
役職員数 (期末) (人)	103	101	124	+20.4%
TOPIX (期末)	1,043	1,179	1,149	+8.2%



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、小数点以下第2位を四捨五入して表示をしている。

(注2) 上記「役職員数(期末)」には、非常勤役員を含む。

営業収益 内訳

		2004年3月期		2005年3月期	
		第3四半期	通期	第3四半期	前年同期比
残高報酬	(百万円)	3,349	4,753	5,856	+74.9%
料率(手数料控除後)	(%)	0.87	0.89	0.89	+0.02
支払手数料控除後	(百万円)	2,808	4,107	4,941	+76.0%
成功報酬	(百万円)	4,526	6,118	5,508	+21.7%
対AUM付帯比率	(%)	61.7	58.5	58.3	-3.4%
その他営業収益	(百万円)	206	244	225	+9.0%
営業収益 合計	(百万円)	8,082	11,117	11,590	+43.4%



(注1) 上記表中の数字は「前年同期比」「残高報酬・料率(手数料控除後)」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」については、小数点以下第3位を四捨五入して表示している「残高報酬・料率(手数料控除後)」を除き、小数点以下第2位を四捨五入して表示している。なお「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」の「前年同期比」は変化率ではなく、単純な増減幅を表示している。

(注2) 上記「残高報酬・支払手数料控除後」は少数株主持株分利益の調整を行っている。

経費 内訳

(単位は全て百万円)	分類	2004年3月期		2005年3月期	
		第3四半期	通期	第3四半期	前年同期比
支払手数料	営業費用	634	804	1,205	+89.9%
委託計算費	営業費用	59	78	135	+127.7%
その他	営業費用	152	214	216	+42.0%
人件費	一般管理費	1,626	1,960	1,749	+7.6%
うち 賞与引当金		650	-	637	-1.9%
旅費交通費	一般管理費	128	229	216	+68.2%
不動産賃借料	一般管理費	218	290	267	+22.3%
事務委託費	一般管理費	153	217	273	+78.6%
減価償却費	一般管理費	124	167	119	-4.0%
その他	一般管理費	411	467	541	+31.5%
営業費用・一般管理費 合計		3,510	4,429	4,725	+34.6%



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、小数点以下第2位を四捨五入して表示をしている。

(注2) 上記表中の「人件費」には、派遣社員等への費用も含んでいる。

グループ人員配置(常勤) 内訳

(注)括弧内の人数は、対2004年3月末比の増減人員数を示している。

	社長・常務・ 取締役	運用調査	営業	コーポレート	ファンド 管理	IT	リーガル&コン プライアンス	リスク・パフォー マンス管理	合計
スパークス・ アセット・ マネジメント投信	5 (+2)	33 (+9)	17 (+2)	11 (+1)	8	6 (+1)	4 (+1)	1 (-1)	85 (+15)
スパークス証券	0 (-1)	0	9 (+2)	2 (-1)	0	0	0	0	11
米国子会社	0	1 (-1)	7 (+1)	4 (+2)	3	3	3 (+1)	0	21 (+3)
英国子会社	0	0	3 (+3)	1 (+1)	1 (+1)	0	1 (+1)	0	6 (+6)
部門別合計	5 (+1)	34 (+8)	36 (+8)	18 (+3)	12 (+1)	9 (+1)	8 (+3)	1 (-1)	123 (+24)



基礎収益力

残高報酬(手数料控除後)のみで確保できる経常的な利益は、どのくらいか？

		2004年3月期 通期	2005年3月期 第3四半期(12ヶ月換算)
AUM平残	(億円)	4,597	7,329
残高報酬料率 (手数料控除後)	(%)	0.89	0.89
残高報酬 (手数料控除後)	(百万円)	4,091	6,523
経常的経費	(百万円)	2,871	3,464
基礎収益	(百万円)	1,219	3,059
役職員数	(人)	99	123

(注1) 上記表中数字は単位未満を切り捨て表示している。「残高報酬」は概算値として、残高報酬料率からの年換算値を表示している。

(注2) 「経常的経費」とは 支払手数料全額、実績賞与、その他特殊要因により生じた費用等の合計を営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指し、2005年3月期第3四半期の「経常的経費」については、当該四半期の経常的経費を基に、12ヶ月換算した数字を用いている。

(注3) 「役職員数」非常勤役職員を含まない。



運用資産残高(AUM)属性と海外投資家比率

投資信託委託業 (単位:億円)	2003年	2004年	2004年	2004年	2004年	
	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	構成比
国内公募投信	250	282	673	685	727	9.5%
国内私募投信	949	1,049	1,292	1,327	1,338	17.4%
投資顧問業 (単位:億円)						
個別口座(国内顧客)	467	573	604	576	621	8.1%
個別口座(海外顧客)	1,766	2,483	3,024	2,734	2,870	37.4%
スパークス設定海外籍ファンド	1,446	1,633	1,957	1,970	2,118	27.6%
投資助言契約	5	6	6	6	5	0.0%
合計	4,885	6,028	7,560	7,301	7,681	100%
海外投資家比率 (単位:%)	55%	59%	58%	57%	57%	



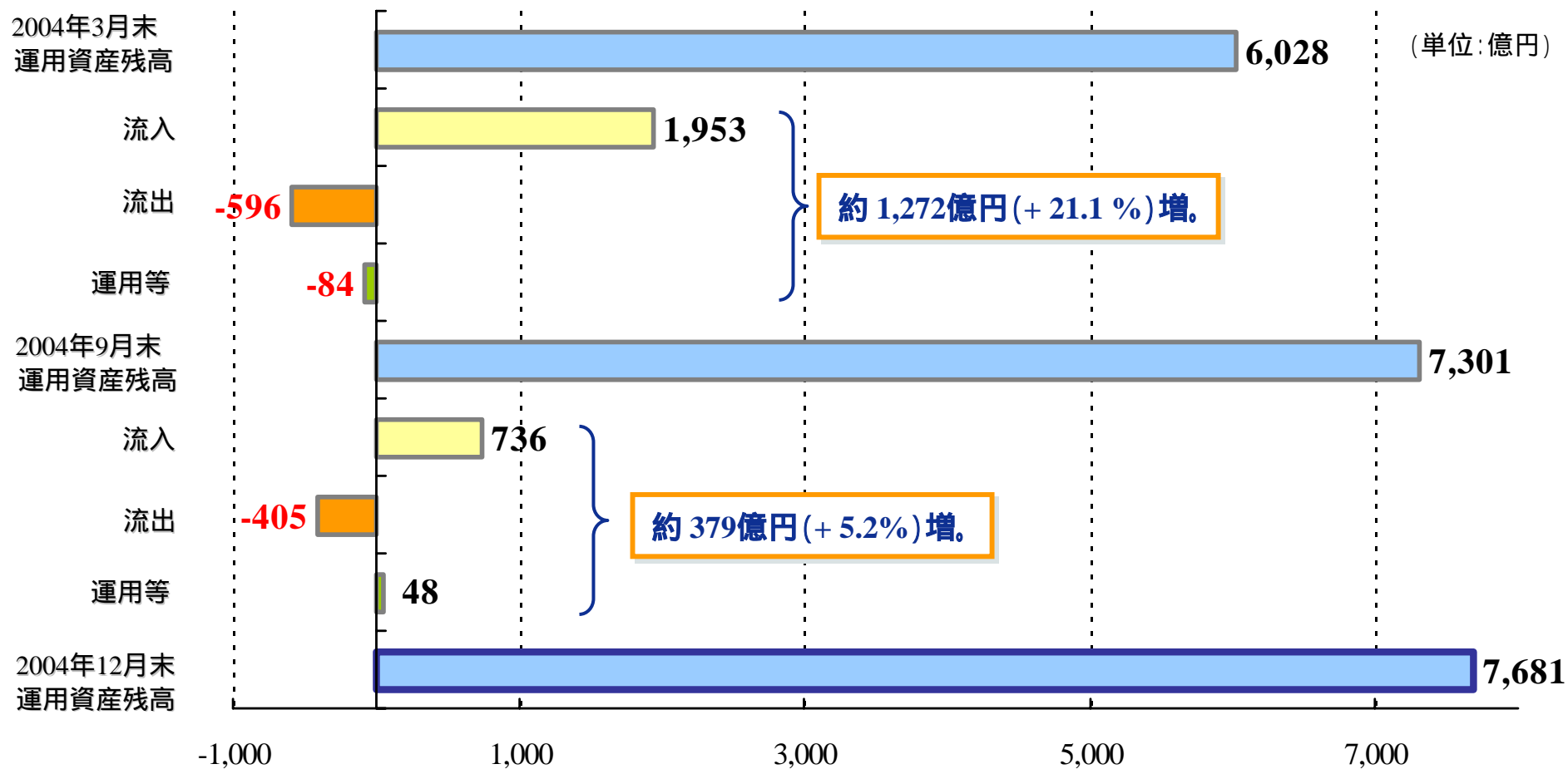
(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。なお、2004年12月末の構成比に関しては、小数点以下第2位を四捨五入し表示している。

(注2) 「スパークス設定海外籍ファンド」とは、当社の海外子会社により運営されているファンドを指す。

(注3) 上記「海外投資家比率」は小数点以下第1位を四捨五入し、単位を%で表示している。

また、上記の数値は社内の概算値を表示しており、正確性を保証するものではない。

2005年3月期 第3四半期資金流出入



(注) 数字は単位未満を切り捨ててで表示している。

資金流入 【2004年3月末～12月末】

(単位:億円)

ストラテジー別 (単位:億円)	2004年 3月末	流入	流出	運用等	2004年 9月末	流入	流出	運用等	2004年 12月末
日本株式ロング・ショート 投資戦略	2,211	779	-290	39	2,739	211	-139	-21	2,789
日本株式集中投資戦略	346	59	-1	-9	395	0	-2	8	401
ファンド・オブ・ファンズ 投資戦略	161	5	-	-2	164	96	-	-5	255
日本株式一般投資戦略	1,608	717	-55	-144	2,125	185	-69	128	2,370
日本株式中小型 投資戦略	1,246	285	-242	-25	1,264	136	-194	-17	1,189
バリュー・クリエーション 投資戦略	388	106	-	62	557	106	-	-43	620
未公開株投資戦略	66	-	-6	-5	54	-	-	0	54
合計	6,028	1,953	-596	-84	7,301	736	-405	48	7,681



(注) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。

成功報酬 内訳

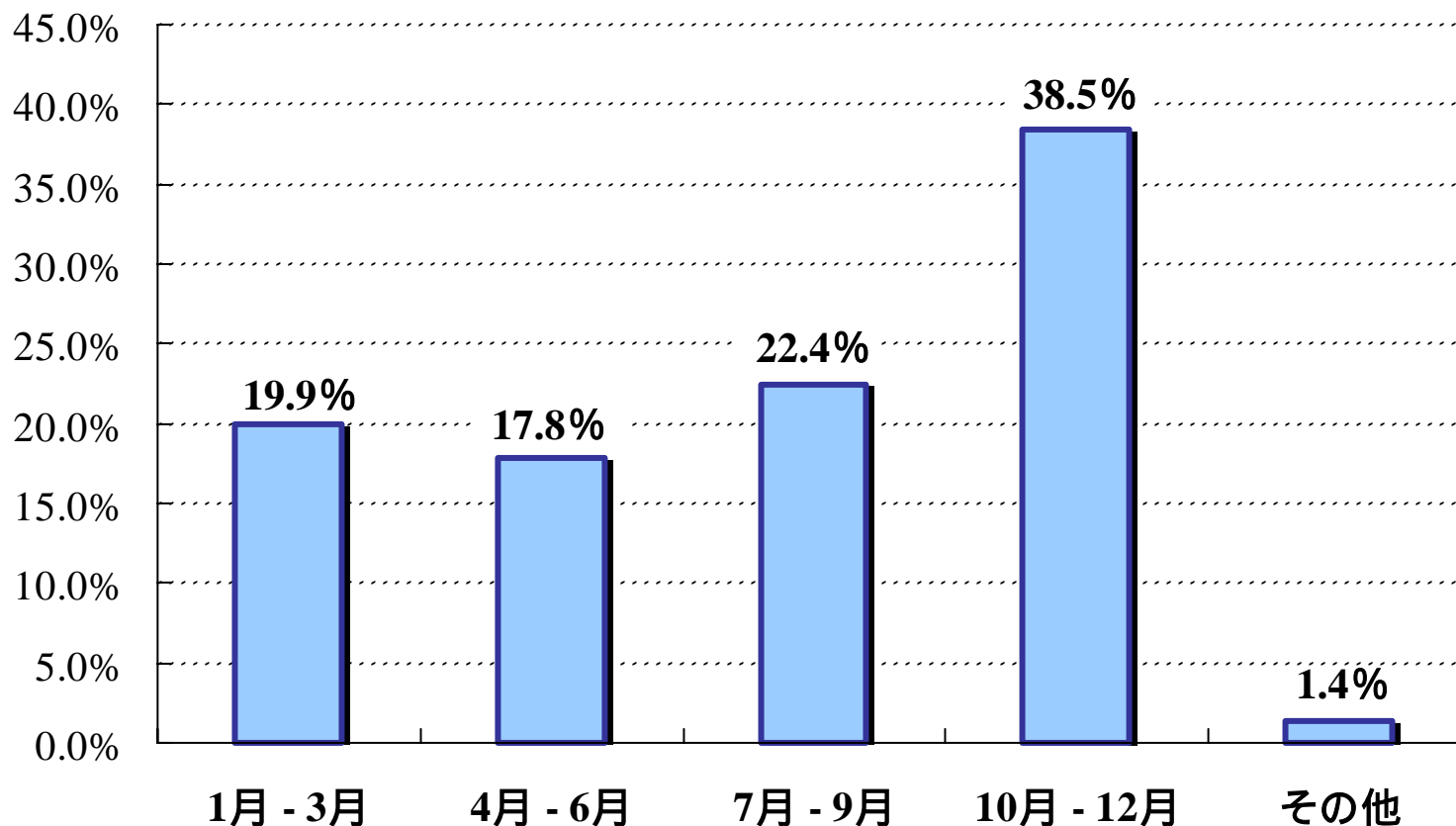
		2004年3月期		2005年3月期	
		第3四半期	通期	第3四半期	前年同期比
AUM平残	(億円)	4,290	4,597	7,329	+70.8%
日本株式ロング・ショート	(百万円)	3,032	4,601	4,042	+33.3%
日本株式集中	(百万円)	324	326	898	+176.7%
ファンド・オブ・ファンズ	(百万円)	78	96	30	-61.6%
日本株式一般	(百万円)	60	60	209	+246.7%
日本株式中小型	(百万円)	21	21	30	+44.3%
バリュー・クリエーション	(百万円)	1,009	1,012	297	-70.5%
成功報酬 合計	(百万円)	4,526	6,118	5,508	+21.7%

(注) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、小数点以下第2位を四捨五入して表示をしている。



成功報酬の計算基準日の分布状況

運用資産残高(2004年12月末)に占める割合



(注1) 上記表中の「運用資産残高(2004年12月末)に占める割合」では、当社が運用する全てのファンド(「ファンド」とは、投資信託あるいは投資一任口座を指す。以下同様)を、成功報酬の基準日および支払いが確定する月ごとに分類し、その上で、当社の2004年12月末の運用資産残高に占める割合をグラフ化した。その際、複数の支払時期があるファンドについては、該当ファンドの残高全てを各月に計上、各月に重複して計上している分は、運用資産残高合計にも加算、成功報酬がついていないファンドは、運用資産残高の合計から除外、という調整を行い、上記割合を算出している。尚、上記の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入し、表示している。

(注2) 上記の数字は、社内データ及び当社資料による概算値であり、正確性を保証するものではない。



主要投資戦略 計測開始日来自リターン

(年率換算)

(コンポジット計測開始日～2004年12月末)

	日本株式 一般(合同口)	日本株式 店頭	ロング・ショート (ドル建、Lev.2)	ロング・ショート (円建、Lev.1)	集中投資	VCI (ドル建)
コンポジット	14.8%	13.1%	21.0%	6.4%	9.2%	51.0%
参考インデックス値	-2.0%	5.7%	0.8%	-5.1%	-2.8%	22.4%
超過リターン	16.8%	7.4%	20.2%	11.5%	12.0%	28.6%

参考インデックス	TOPIX配当込	日経JASDAQ 平均	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)	TOPIX配当込	TOPIX配当込	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)
計測開始日	97年5月	97年4月	97年8月	2000年6月	99年7月	2003年2月
コンポジット・リターン のボラティリティ(年率)	25.6%	26.8%	12.6%	6.4%	24.9%	20.0%

(注1) 上記表中の数字は、当社で運用する主要な投資戦略のコンポジット・リターンを社内資料に基づいて作成した。表中の「参考インデックス」とは、相対比較のために便宜的に採用した指標であり、顧客から要請されているベンチマークとは限らない。

(注2) リターン算出基準は次の通り。「日本株式一般」「日本株式店頭」「ロング・ショート(ドル建、Lev2)」「集中投資」については、修正ディーツ法・運用関連手数料控除前、「ロング・ショート(円建、Lev1)」は基準価格法・運用手数料控除後、「VCI(ドル建)」は内部収益率・運用手数料控除前。また、上記数字は小数点以下第2位は四捨五入して表示している。

(注3) 「TOPIX配当込(ドルヘッジ)」は1ヶ月為替フォワード・レートで完全にヘッジされた場合のドル建のリターンを計算している。



コンポジット算出に関する追記

- 各コンポジットはスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社とその100%子会社であるSPARX Overseas, Ltd. 及びSPARX Investment & Research, USA, Inc.が運用するポートフォリオを対象としている。
- 今回提示した各コンポジットの投資戦略の内容は以下の通りである。

コンポジットの名称	投資戦略の内容
日本株式一般(合同口)	合同運用を行う、日本の全上場・公開銘柄を投資対象とするアクティブ投資戦略
日本株式店頭	日本の店頭、中・小型株を主要投資対象とする投資戦略
ロング・ショート (ドル建、Lev2)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の2倍の範囲内として安定した絶対リターンを目標とするロング・ショート投資戦略
ロング・ショート (円建、Lev1)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の1倍の範囲内として安定した絶対リターンを目的とするロング・ショート投資戦略
集中投資	少数銘柄の日本株式に集中的に投資する投資戦略
VCI(ドル建)	コーポレート・ガバナンスの見地から日本株式に能動的に投資する投資戦略

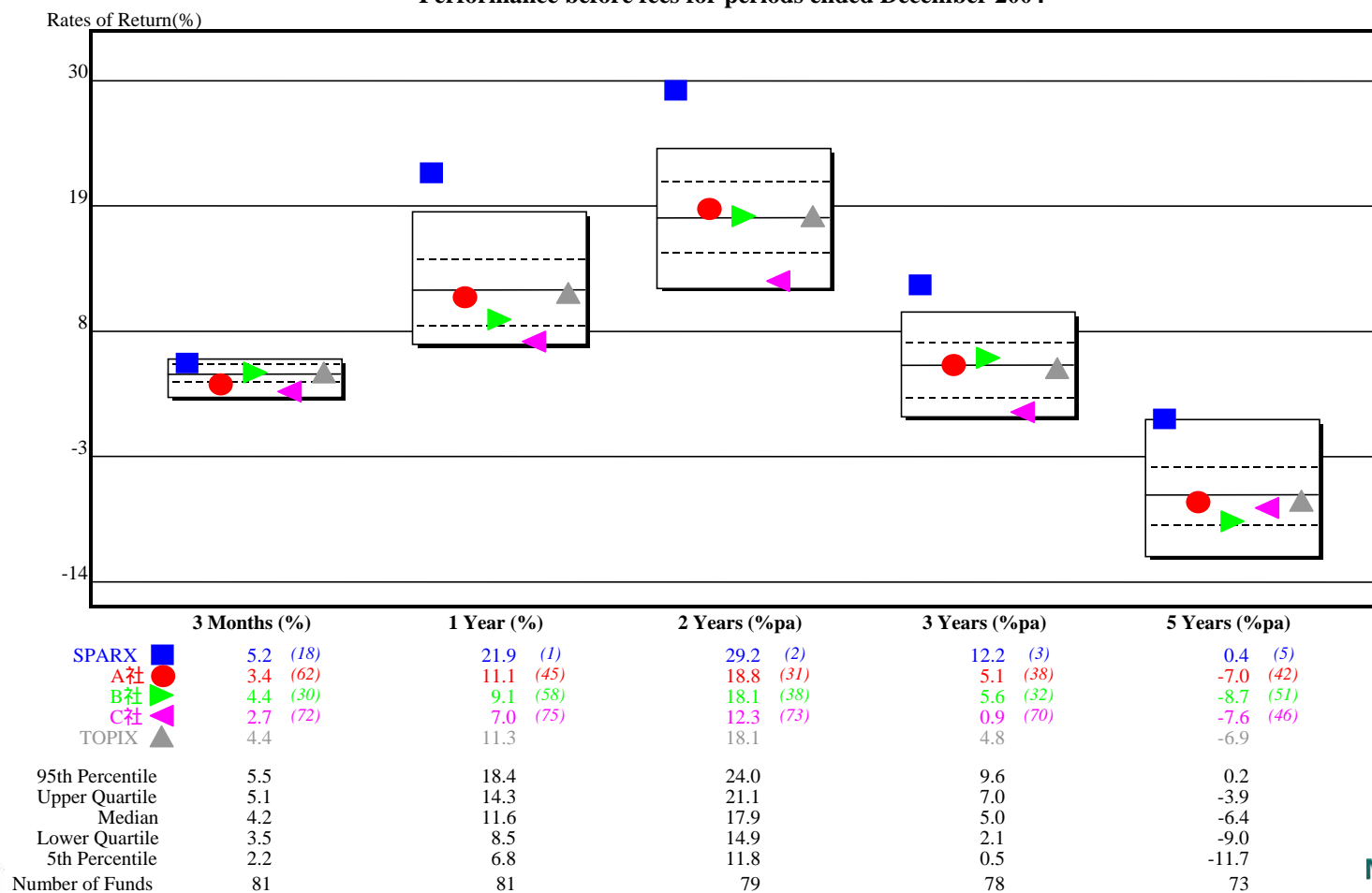
3. リターンに関する追加情報(過去5年の年度別リターン)

	2000年3月期	2001年3月期	2002年3月期	2003年3月期	2004年3月期
日本株式一般(合同口)	93.34%	-25.25%	-0.22%	-25.58%	78.06%
日本株式店頭	104.83%	-34.98%	-10.21%	-16.85%	69.66%
L/S(ドル建、Lev2)	50.95%	-4.20%	9.68%	-6.41%	37.92%
L/S(円建、Lev1)	-	2.02%(10ヶ月)	7.09%	-7.30%	29.30%
集中投資	44.68%(9ヶ月)	-11.66%	-9.65%	-10.51%	53.23%

- GIPSに準拠したコンポジットは、要請があれば提供することが可能である。

【ご参考】パフォーマンスのピア・グループ比較

Comparison with the Mercer Japanese Equity Universe
Performance before fees for periods ended December 2004

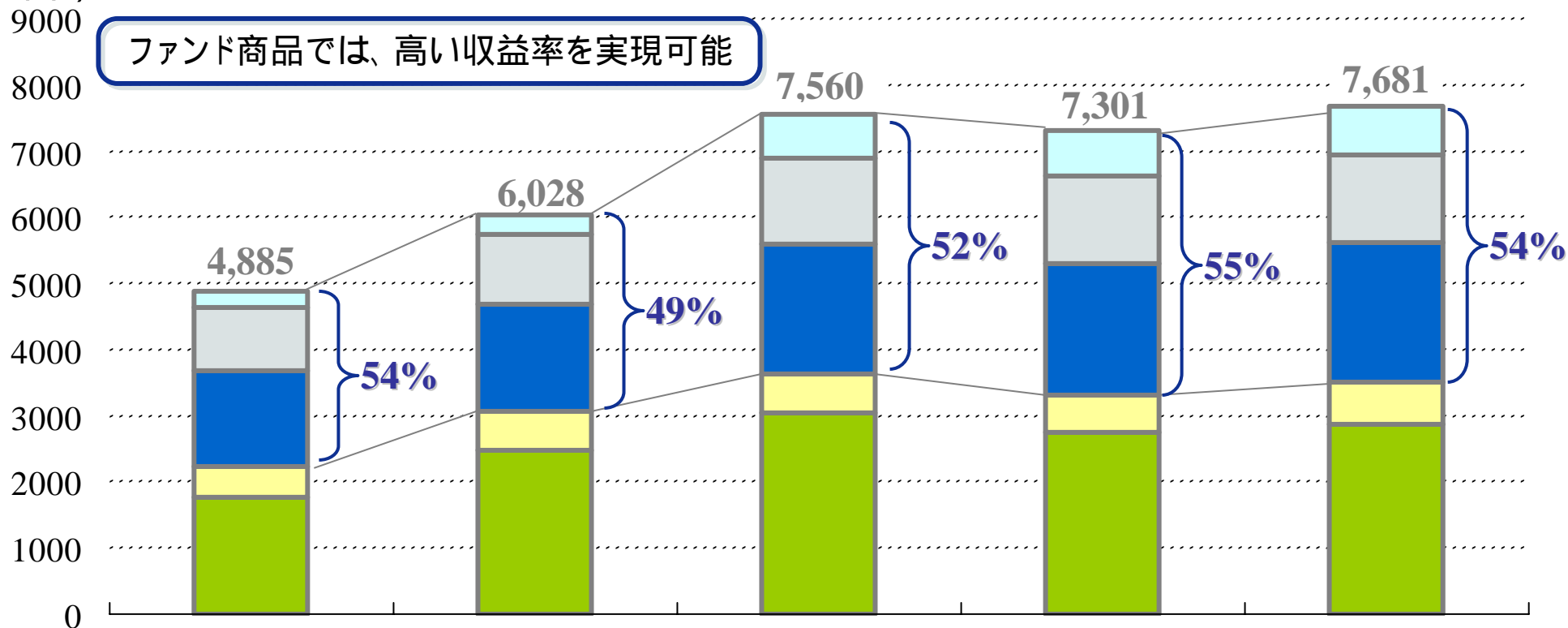


(注) 上記の数字およびグラフは、マーサー・インベストメント・コンサルティング社の調査に基づく。
ファンドに関する数値は、将来の結果を約束するものではない。

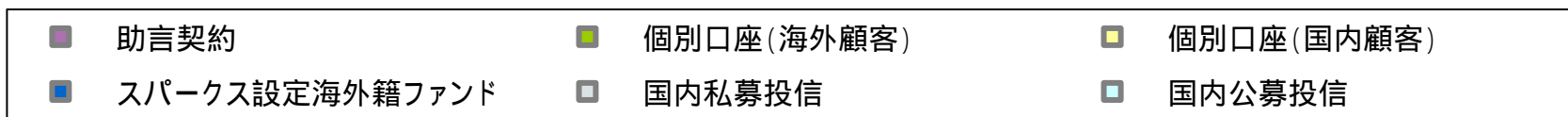


収益性の維持に向けて ; ファンド商品の比率

(単位: 億円)



2003年12月末 2004年3月末 2004年6月末 2004年9月末 2004年12月末



(注1) 上記グラフ中の数字のうち、運用資産残高に関しては、単位未満を切捨てて表示している。また、運用資産残高におけるファンドの割合については、小数点以下第1位を四捨五入し表示している。

(注2) 「成功報酬の付帯比率」の数値は社内データ及び当社資料による概算値であり、正確性を保証するものではない。

収益性の維持に向けて ; 新たな顧客ニーズの開拓

独創的なプロダクトの販売: 公募投信の例

➤ スパークス・超小型株・ファンド(2004年12月設定、後発の2005-01は2005年1月設定)

全上場企業のうち時価総額が下位2%のユニバースの中から、将来有望な銘柄を見極め、投資対象とする。(2度の販売による設定額は計約100億円)

➤ スパークス日本株集中投資ファンド(2005年2月設定予定)

伝統的な「分散投資」の概念にとらわれず、プライベート・エクイティ投資のコンセプトを活かし、「成長企業への集中投資」を行う。

今後も特徴ある新商品を開発・販売し、顕在化されていない顧客ニーズへとアプローチする。

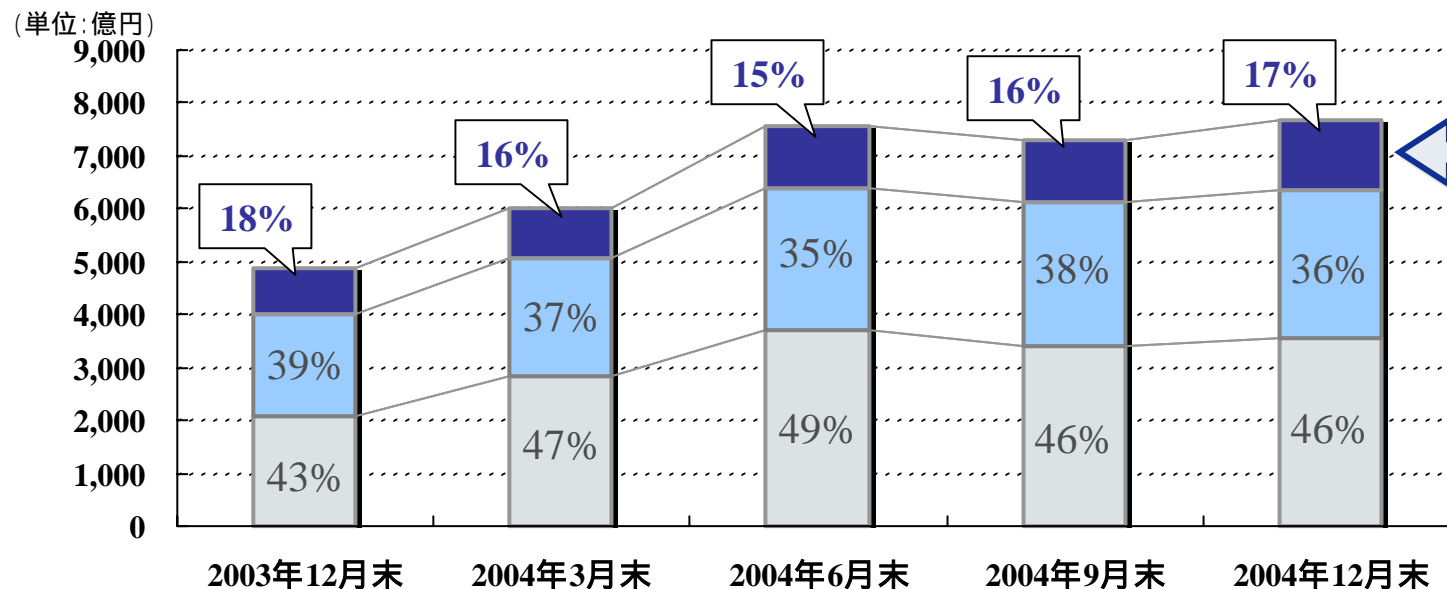


収益性の維持に向けて ; 戦略投資

戦略投資への注力

従来までのロングオンリーやロング・ショート投資戦略に代わる、新たな手法での投資を進める。
2005年1月に戦略投資部を創設

（具体的には：日本株式集中投資戦略、ファンド・オブ・ファンズ投資戦略、バリュー・クリエーション投資戦略など。）



報酬料率の維持に貢献

戦略投資は高い報酬料率が期待できるため、運用残高を増やすことにより高い収益性が見込める。

(*グラフ上の数字は、運用資産残高全体における戦略投資の残高の割合を示している)



■ Long-only ■ Long-Short ■ Strategic, VCI, FoF, PE

(注) 上記グラフ中の数字は、小数点以下第1位を四捨五入し表示している。

アジア投資への取り組み

Cosmo Investment Management Co., Ltd. (韓国) の株式を取得

Cosmo Investment Management Co., Ltd.

運用資産残高 約600億円 (2005年1月末日現在)

資本金 約6億円 (2004年3月末日現在)

役職員数 17名

事業内容 投資顧問(一任及び助言)業務

最近事業年度における業績

営業収益 約9億円

経常利益 約3億円

当期利益 約2億円

1999年当時のスパークスとはほぼ同規模

スパークス投資顧問株式会社 (1999年当時)

運用資産残高 524億円 (1999年3月末日時点)

資本金 5億円 (1999年3月末日時点)

役職員数 22名 (単体)

事業内容 投資顧問(一任及び助言)業務

1999年3月期における業績(連結、未監査)

営業収益 11億円

経常利益 4億円

当期利益 2億円

2004年3月期には、営業収益111億円、
経常利益66億円、当期利益33億円に成長



これまでのノウハウを活かし、アジアで第二、第三のスパークスの育成を目指す

(注1) 1999年3月期におけるスパークス投資顧問株式会社の業績は、当社の内部資料に基づく未監査の数値である。

(注2) 韓国ウォンから日本円への換算にあたっては、2005年2月14日時点の為替レート(1ウォン 0.1円)を用いている。



本資料は、参考資料としてスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社が作成したものであり、証券取引法上の開示資料ではありません。また、本資料は、投資情報の提供を目的としたものであり、特定の商品、あるいは、有価証券の勧誘を目的にしたものではありません。投資判断は、各人の個別の情報と判断と責任によってなされるものであり、投資結果についてスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社が責任を負う事はありません。情報については、正確を期していますが、正確性に責任を負うものではありません。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点でのものであり、今後、予告なしに変更されることがあります。また、過去の実績に関する数値は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料は、目的によらず、スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社の許可なしに複製・複写をする事を禁じます。